

教育
広報

いわき

編集責任者
福島県教育庁
いわき教育事務所発行責任者
御代田 進一
編集協力者
いわき市教育委員会

躍動！「チームふくしま」



学校・家庭・地域が目標を共有し、共に力を合わせチームとして福島県全体の教育力を高めていくという視点から「躍動！『チームふくしま』」を推進テーマとして掲げ、引き続きふくしまの再生に向けた教育の推進をしてまいります。

子ども一人一人のために

いわき教育事務所長 御代田 進一



数年前から自宅前の畑を耕すようになりました。春になると肥料を入れ耕し、最初は、ジャガイモ、次にキュウリやなすなどの夏野菜、そして夏が終わる頃に白菜や大根の種まきです。雑草や虫、獣との戦いですが、小さな畑の中にも日々変化があり、四季を感じることができます。種をまくと一斉に芽吹きます。作物として成長させるためには「間引き」が必要になりますが、この時、どれを間引くかで悩みます。農業は教育に似ているとよく言われますが、長く教育に携わってきた私は、この間引くという作業をする時、少し複雑な気持ちになります。小さな芽が、精一杯頑張ろうとしている子どもたちの姿と重なるからです。間引くのを躊躇し多めに残したり、別の場所に移植したりしますが、結局はよく育てられず個性的な作物となります。

さて、今回の全国学力・学習状況調査の結果で、気になる内容があります。それは、学校質問紙調査における、本県の「個に応じた指導」の結果です。

算数・数学において、「習熟の遅いグループ」に対して少人数による指導を行い、習得できるようにした。「習熟の早いグループ」に対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱った。」という項目です。「よく行った」とする回答偏差値の全国平均を5.0とすると、小学校が4.7（全国での最高は6.1、最低は4.5）、中学校が4.6（全国での最高は5.9、最低は4.5）となっています。

県教育委員会では、平成14年度から全国に先駆け少人数教育に取り組み、そのための教員加配の予算獲得に大変な苦勞をしてきました。今回のこの結果が残念でなりません。

理解の早い子、遅い子、意欲のない子、集中の続かない子…、一人一人に応じた手立てを考え、その子なりの成長に関わっていただきたいと思えます。「育てる」ことにおいては手間を惜しんではならないと、改めて思います。

算数・数学ジュニアオリンピック

10月22日(日)にいわき光洋高校を会場に、算数・数学ジュニアオリンピックが行われました。

今年度は、いわき市教育委員会主催で「小学生版いわき志塾番外編『平成29年度算数・数学ジュニアオリンピックがんばろう会』」が実施され、150名を超える児童が参加しました。

当日は県内参加者の1/3を占める417名が参加しました。今年度より設けられた最高学校賞に、郷ヶ丘小学校が輝き、個人賞も小学校(銅賞10名、奨励賞6名)、中学校(金賞1名、銀賞1名、銅賞4

名、奨励賞4名)合わせて、26名の入賞者(表彰者名はP4別掲)がありました。子どもたちからは、「難しかったが考えることが楽しかった」という声を、多く聞くことができました。また、複数年参加する子どもが増え、算数・数学へ関心の高まりがうかがわれました。

